

1 授業のねらい

歴史的時代が流れると、社会や文化は必ず変化（変容）するのか？例えば、医師と患者の関係は、現代の医療社会では「おまかせ型」から「自己決定型」へと変容しているようであるが、権力的な見地ではどうだろうか？本講義では、「社会変動論」の見地から、「社会」「文化」の変動（変容）過程を考察していきたい。

2 授業の計画

1日目 ガイダンス／「社会」の概念

2日目 「変動」の概念・要因

3日目 発展段階論Ⅰ

4日目 発展段階論Ⅱ

5日目 社会静学的視点Ⅰ

6日目 社会静学的視点Ⅱ

7日目 まとめ／試験

なお、試験範囲は「6日目」までの範囲に設定される予定である。

3 教科書

☆『人間生活の理論と構造』夏刈康男（ほか）著 学文社

2,625円（税込）（送料390円）

4 参考書

☆『補強版 ストレス・スパイラルー悩める時代の社会学』

服部慶巨著 人間の科学社（必携）

1,260円（税込）（送料340円）

5 成績・評価

評価は、終講試験と平常点による。なお、（理由もなく）出席状況の悪い学生には単位認定しないが、「出席」の実績だけを考えているような学生の参加も歓迎しない。講義で語られた事象を「実践」しようとする、志の高い学生の参加を希望する。